

科目	老年看護学方法論3	講義時間数	15／15時間	配点	36／100点中
講師名	藤田 めぐみ	試験月日	令和7年12月4日(木)		
学籍番号					

- * 課題点 10点×4＝40点
- * 平常点 2点×7＝14点
- * ミニテスト 10点
- * 本試 36点

【問題1】高齢者を見る上で必要なことについて（ ）に当てはまる言葉を記入しなさい。（各1点）

- ・老年看護学を取り巻く背景を理解するためには ① 時代 、 ② 背景 と ③ 生活 背景の両面から理解する必要がある。
- ・エリクソンの老年期の発達段階は ④ 絶望 、 ⑤ 対 ⑥ 絶望 であり、否定的感覚に陥るのか肯定的感覚を獲得できるのか、各人生段階で培った基本的強さの土台によって ⑦ 個性 が大きいため看護を行う上で ⑧ 背景や取り巻く環境 から影響を分析していく必要がある。
- ・高齢者を見るときには加齢による ⑨ 生理学的変化 を理解しておくことが重要である。
- ・加齢による ⑩ ⑦ で生活上に影響を及ぼすことが多いのは ⑪ 身体機能 の低下である。
- ・医療の進歩により後遺症など生活面での不自由さを持ちながら生きる高齢者が増加しているため、老年看護の対象である高齢者は人生の最期まで様々な ⑫ 健康状態 を抱えているということを十分に理解して関わる必要がある。
- ・高齢者は、顕在的な問題もしくは潜在的な問題から、別の健康問題が生じたり健康問題によって生活上の問題を持つことが多くなるため老年期の看護では ⑬ ADL のサポート が多くなる。
- ・老年期の看護実践は介護の要素が強く生活面のサポートが基本となるため、もとの疾患と加齢による変化が ⑭ 日常生活 にどう影響を及ぼすのか変換していくことが大事である。
- ・老年期の看護は生活を主体に考えるので ⑮ 生活の実態 を知るための情報収集が重要である。

【問題2】老年看護の目標について（ ）に当てはまる言葉を記入しなさい。（各3点）

高齢者のもつ健康あるいは生活上の ① ADL の最大化 と ② 可能性の最大化 をはかる援助を通して、その人の望む自律的な生き方の実現と安らかな死に貢献すること

【問題3】リハビリテーションを受ける高齢者への看護の役割について5つ答えなさい。（各3点）

- ① 疾患から 生活への転換 の転換
- ② 作業ADL の拡大
- ③ 自立度の拡大に伴う 環境 への予防
- ④ 身体 に向けた支援
- ⑤ 家族 へのかわり

【問題4】次の文を読み問題に答えよ。（3点）

Aさん（89歳、女性）は、息子夫婦と3人暮らし。障害高齢者の日常生活自立度判定基準A-2。腹部膨満感とふらつきを自覚したため受診したところ、原発不明の癌による多臓器への転移と腹水貯留が認められ、入院した。入院時に、医師からAさんと家族に、回復の見込みが低いことが伝えられた。看護師に、Aさんは「もう十分長生きできましたから、自然に最期を迎えたいです」と話した。

身体所見：身長148cm、体重43kg、腹囲80cm。体温36.8℃、血圧128/80mmHg、経皮的動脈血酸素飽和度（SpO2）97%。意識レベル清明。

検査所見：Hb 6.9g/dL、総蛋白4.5g/dL、アルブミン2.9g/dL、AST（GOT）45IU/L（U/L）、ALT（GPT）60IU/L（U/L）、Na 130mEq/L、K 4.2mEq/L。

Aさんは全身の衰弱がみられるものの、Aさんの希望で病室のトイレには歩いて行くことになった。看護師は、Aさんは転倒するリスクが高いと判断した。Aさんの転倒要因はどれか。2つ選べ。

- ① 貧血
- ② 腹水貯留
- ③ 肝機能低下
- ④ 低酸素血症
- ⑤ 低カリウム血症

老年看護学方法論 3 (藤田)

1. 老年期の加齢に伴う睡眠の変化で正しいのはどれか。

- 1. 就寝時刻が遅くなる。
- 2. 中途覚醒の回数は減る。
- 3. 早期覚醒をきたしやすい。
- 4. 就寝から入眠までの時間が短くなる。

2. 高齢者の健康障害の特徴で正しいのはどれか。

- 1. 症状が定型的に出現する。
- 2. 薬物副作用が発生しやすい。
- 3. 慢性化すると急激な変化は起こりにくい。
- 4. 環境の変化があっても症状の変化は起こりにくい。

3. 高齢者が罹患したときの特徴はどれか。

- 1. 薬物の代謝が早まる。
- 2. 症状が定型的に現れる。
- 3. 意識障害を起こしやすい。
- 4. 環境の影響を受けにくい。

4. 高齢者の疾患の特徴として正しいのはどれか。

- 1. ADL への影響は少ない。
- 2. 症状の出現は定型的である。
- 3. 環境からの影響を受けにくい。
- 4. 複数の臓器に障害が生じやすい。

5. 老年期の体温調節で正しいのはどれか。2 つ選べ。

- 1. 温めると容易に体温が上昇する。
- 2. 暑さ・寒さに対する感受性が高い。
- 3. 発汗にはより高い体温が必要である。
- 4. 骨格筋が減少して熱産生能が低下する。
- 5. 末梢血管収縮反応が亢進し熱が逃げにくい。

6. 免疫機能の加齢変化で正しいのはどれか。

- 1. T 細胞数は減少する。
- 2. 胸腺組織は肥大する。
- 3. ストレス耐性は変化しない。
- 4. 副腎皮質刺激ホルモンは低下する。

7. 老年期の加齢に伴う聴覚の変化に対するコミュニケーションの工夫で適切なのはどれか。

- 1. 高い声で話しかける。
- 2. 子音を特にはっきり発音する。
- 3. 居室には反響の強い部屋を選ぶ。
- 4. 少し離れて大きな声で話しかける。

8. 加齢によるホルモンの基礎分泌量の変化で正しいのはどれか。

- 1. メラトニンが増加する。
- 2. コルチゾールは変化しない。
- 3. 成長ホルモンは変化しない。
- 4. 副甲状腺ホルモンは減少する。

9. 便秘の原因となる加齢に伴う身体的変化で誤っているのはどれか。

- 1. 大腸粘膜の萎縮
- 2. 骨盤底筋群の筋力低下
- 3. 直腸内圧の閾値の低下
- 4. 大腸の内括約筋の緊張の低下

10. 加齢に伴う心血管系の変化で正しいのはどれか。2 つ選べ。

- 1. 心拍数の増加
- 2. 左室壁の肥厚
- 3. 収縮期血圧の上昇
- 4. 圧受容機能の亢進
- 5. 刺激伝導系の細胞数の増加

9 / 10